

ふれあい中須

平成21年
10月15日号

編集発行
中須をよりよくする会
中須公民館



産業文化祭

昨年度に引き続き、産業文化祭（ルーラルフェスタと同時開催）十一月七・八日（日）を開催します。

開催日 十一月八日（日）
時間 十時から十五時
場所 総合運動場

内容 各種バザー
ステージイベント
（久保神楽、小学校合唱、中学校ダンスなど多数）
作品展示
お楽しみに



人権教育講演会

大橋広宣さん（和田山企画代表）をお招きして、人権教育講演会を開催します。

演題は、『苦手は得意でカバー個性を伸ばして生きる』です。
みんなで、いっしょに考えてみませんか？

日時 十月二十五日（日）
午前十時四十分から
（九十分程度）
会場 中須小学校 講堂
入場料 無料
主催 北部ブロック人権教育
推進協議会中須支部
問合せ先 中須公民館
890301

受けよう！ がん検診

「健康だからこそ検診を受ける」
ことで、あなた自身の健康を守りましょう。

胃がん検診（40歳以上の方）
申込みが必要です。費用1,200円

月日（曜日）	会場	受付時間
10月26日（月）	須々万支所	8:00～10:00

肺がん・結核検診（40歳以上の方）
申込みは、必要ありません。
受診券と費用500円が必要です。

月日（曜日）	会場	受付時間
10月26日（月）	須々万支所	8:00～10:00
	中須支所	13:00～13:30

申込み・お問い合わせ
周南市コアプラザかの 68-2302

10月・11月の行事予定

日時	内容	場所	備考
10月14日（水）	特定計量器検査	中須支所	15:00～15:30
10月18日（日）	市民運動会	総合運動場	体育振興会
10月24日（土） 13:20～14:00	移動図書館 やまびこ号	中須支所	
10月25日（日）	人権教育講演会	中須小学校講堂	大橋広宣さん
10月26日（月）	肺がん・結核検診	中須支所	13:00～13:30
11月1日（日）	中須中学校文化祭	中須中学校	
11月7日・8日	ルーラルフェスタ	総合運動場	同時開催
11月8日（日）	中須地区産業文化祭		



中須保育園運動会
10月4日（日）

中須の人口 10月1日現在

	10月1日現在	前月比
男	421人	(-2人)
女	495人	(±0人)
総人口	916人	(-2人)
世帯数	425世帯	(±0世帯)
高齢化率	44.3%	



なかず再発見！

第18回

一ノ谷『敦盛塚』の巻



今回の再発見は、一ノ谷『敦盛塚』です。大田原方面へ向かう県道三瀬川下松線から市道一ノ谷線へ入ると、そこには、ため池があり、そのそばに、敦盛塚はありました。『敦盛』とは、平敦盛（たいらのあつもり）という平安時代末期の武将のことです。平清盛の弟である平経盛の末子、笛の名手としても知られています。寿永三年（一一八四年）二月、平家一門として十七歳で一ノ谷（現兵庫県神戸市須磨区一ノ谷）の戦いに参加。そこで、熊谷次郎直実（くまが いじろうなのおさね）の一騎打ちを行った有名な場面が『平家物語』の中で語られています。源氏の奇襲を受け、平氏側が優勢になり騎馬で海上の船に逃げようとした敦盛を、直実が『敵に後を見せるのは卑怯でありましよう、お戻りなされ』と呼び止め、敦盛が戻ると一騎打ちとなり、直実が敦盛を馬から組み落とし、首を斬ろうと兜を上げてみると、そこにはわが子

と同じ年頃の美しい若者の顔があり、直実は戸惑います。直実は、助けようとする。敦盛は『お前のためには良い敵だ、名乗らずとも首を取って人に尋ねよ。すみやかに首を取れ』と答え、直実は涙ながらに敦盛の首を斬ったといひます。また、敦盛の腰にまかれた笛（小枝または青葉の笛と呼ばれ、戦の前の明け方に城から聞こえた笛の音が敦盛であったことを知り、武家の性と世の中の無常さを感じ、このことをきつかけとして、直実は、後に出家したといひます。いつ、誰が何のためにこの『敦盛塚』を建てたのか、なぜ『一ノ谷』なのか、残念ながらはつきりとは分かりません。兵庫の一ノ谷と同名であること、中須に隣接する須万の地名も兵庫須磨の地名から生まれたとも言われていること、そして、この『敦盛塚』源平合戦と何か関係があると考えられるのが自然だと思えました。私は、いろいろ自然説を頭の中に浮かべながら、どこからともなくこの場所が聞こえてきそうな静かなこの場所を後にしました。（写真・文 公民館主事 福田）

ちよっとひとこと

『秋、農繁期』

収穫の秋、『米』『梨』『栗』『柿』など農作物の収穫の最盛期を迎えている。

通勤途中に『新米入荷』『観光なし園』などの『看板』『や』の『ぼり旗』が目につくようになってきた。

『秋済ましちやった。』『まだ、もち米がのこつちよるいね。』

これは、私が四月に中須支所にお世話になって、半年（六ヶ月）を迎えようとしたある日の会話である。

私も、鹿野で零細ではあるが稲作をしている関係で、このような会話が自然と出てしまう。『何を作っちゃうの（品種は？）』『梅雨明けが遅れ日照不足が影響しちよるみたいじゃね。』『台風が来んにゃあええがねえ。』

『梅雨明けが遅れ日照不足が影響しちよるみたいじゃね。』『台風が来んにゃあええがねえ。』

中須支所長 竹安昌巳